

《履修上の留意事項》 剽窃や改竄などの不正は極めて低劣で唾棄すべき行為であり、いかなる事情があろうとも容認されることはない。そのような不正が発覚した場合、あるいは強く疑われる場合には、以降、その学生からの提出物は評価の対象から除外することとする。

《担当者名》 齊藤 恵一 百々 尚美 真島 理恵 福田 実奈

【概要】

心理学の基礎領域における代表的な実験法を体験的に学ぶ。

感覚・知覚、認知、学習、社会心理学の各領域での実験課題が扱われる。

具体的な実施形態についてはガイダンス時に示されるので、以降はその指示にしたがって受講すること。

【学修目標】

実験の計画を立てることができること。

実験データの収集及び処理を適切に行うことができること。

実験の結果について適切な解釈ができ、報告書を作成することができること。

対象を独立変数（環境変数）-（心・身体）- 依存変数の関係で理解すること。

初歩的な科学的レポートのまとめ方を学習すること。

心理学的な研究を行う際の倫理的問題等について理解すること。

基礎領域の感覚・知覚、認知、学習、社会心理学で用いられる実験法の6つの実験を体験し、指定の要件を満たすレポートを作成すること。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～3	ガイダンス	授業の進め方。 実験レポートについて。 研究参加システム(sona systems)についての案内。	齊藤 恵一 福田 実奈
4～6	ミュラーリヤー錯視図形1	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	百々 尚美
7～9	ミュラーリヤー錯視図形2	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	百々 尚美
10～12	ミュラーリヤー錯視図形3	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	百々 尚美
13～15	条件づけ1	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	福田 実奈
16～18	条件づけ2	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	福田 実奈
19～21	視覚探索1	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	福田 実奈
22～24	視覚探索2	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	福田 実奈
25～27	囚人のジレンマ1	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	真島 理恵
28～30	囚人のジレンマ2	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	真島 理恵
31～33	囚人のジレンマ3	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	真島 理恵
34～36	意味記憶1	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	齊藤 恵一
37～39	意味記憶2	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	齊藤 恵一
40～42	鏡映描写1	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	齊藤 恵一

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
43～45	鏡映描写2	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	齊藤 恵一

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

各実験について、チェックリストの項目に従ってそれぞれ評価される

体験的な学習であるから、毎回出席し、かつ指定された期日までにレポートを提出することが成績評価の最低条件となる。

【教科書】

使用しない。

【参考書】

日本心理学会編 執筆・投稿の手びき（2022年版）

<https://psych.or.jp/wp-content/uploads/2019/02/The-JPA-Publication-Manual.pdf>

American Psychological Association, Publication Manual of the American Psychological Association, 7th Edition.

その他、適宜指示する。

【備考】

- ・すべての実験課題を完遂し、レポートを提出すること。
- ・実験によってはグループ分けがなされ、さらに集合時間が異なる場合があるので注意すること。
- ・実験により教室が異なるので気をつけること。
- ・個人情報の管理には十分注意すること。
- ・資料の配付やレポートの受領・返却にはGoogle Classroomを使用する場合がある。
- ・実験の実施やデータの収集・分析にはパソコンやインターネットを利用する。

【学修の準備】

次のようなことを身につけるつもりで受講すること：理論・モデルから仮説の導き方、仮説を検証するための実験デザイン、実験を行う際の技術的および倫理的問題に対する意識、実験の目的に応じたデータの適切な解析法、結果の整理の仕方、結果に基づいた考察の進め方、および実験レポートの書き方、など。

【レポート】

課題ごとにレポートが課されるため、それらに対して自分の力で真剣に取り組み、期限厳守で提出すること。レポートを書く際には毎回、これまでに習った、レポートを書く際の取り決め、フォーマットについて復習し、それに従ってレポートを書くこと。レポートの書き直しは課された場合には、レポートの書き方について改めて復習し、それに従って書き直して期限までに提出すること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

心の問題を評価し援助する基礎的技能を修得する。

【実務経験】

百々 尚美(公認心理師)

【実務経験を活かした教育内容】

公認心理師としての医療・福祉・教育での実務経験を活かし、臨床・研究の成果を反映させた講義内容となっている。